

NGU NEWS ISSN 0915-8901

COSMORAMA



名古屋キャンパス「日比野学舎」イメージ図



72

2005 March



名古屋キャンパス「白鳥学舎」イメージ図

タイ留学体験報告



コンケン大学正門

留学の動機、「コンケン大学」を選ばれた理由はなんですか。

大学院進学コースで講義を受けていた際、院生を対象にした夏期休暇間のコンケン大学留学のプログラムの存在を知りました。院生対象という点もあり、レベルが高いのではと少しためらっていたのですが、コンケン大学の英語学科の院生

留学先の「コンケン大学」は、どのような大学か紹介してください。

コンケン大学は、イサーン地方と呼ばれるタイの東北部にあり、人文科学部や、教育学部、農学部や医学部など17の学部とそのほかの教育機関を有し、総計約17,000人の学生が在籍する国立の総合大学です。敷地は約900ヘクタール、名古屋学院大学の数十倍と広く、図書館や博物館、病院、学生や先生が住む寮や、生活に最低限必要な衣料品店や食堂、コンビニエンスストアなども揃った二つの町といった印象でした。



PROFILE
いけ ぬま
池沼みちるさん
外国語学部英米語学科4年

CONTENTS

Interview

1 タイ留学体験報告

Topics

- 2 学長に小嶋博教授が就任
- 3 名古屋キャンパスについて
概要報告(1)
第3回経済学部卒業研究発表会
牧野真太郎
- 5 大学基準協会による認証評価を受けて
新熊 清
- 6 NGUと地域貢献
木村光伸

Essay

- 7 シリーズ②③ エッセイ
かつて外から見ていた「名古屋」
有賀敏之

Campus Now

- 8 私の講義日誌① 村上みか
- 9 聖書と教室⑧ 希望館
サークル短信 体育会「硬式野球部」
- 10 「シティーカレッジ2005」開講講座案内
チャペルのかたすみで⑫
- 11 2004年度 学生部長表彰
2004年度父母懇談会が盛会に終了
2004本学の動き

Information

- 12 学部・大学院952名が卒業および修了
学長表彰で12名が表彰
山崎誉雄教授が最終講義
英語・中国語スピーチコンテストを開催
2005年度資格取得講座案内
2005年度父母懇談会
および父母会総会の開催について
156社を招いて会社説明会を開催
第23回学生論文コンクール表彰
本法人の財務諸表等の閲覧について
2005年度春学期の学費請求について
「名古屋キャンパスチャペル建設資金」
募金のお願い
行事予定(2005年4月~9月)

COSMORAMA(コスモラマ)の由来

「宇宙」や「世界」を表わすCOSMOS(コスモス)とPANORAMA(パノラマ)との合成語。19世紀にロンドンの街角でしばしば行なわれた世界各地の様子をのぞきみせるショーの名称として使われたのが最初。世界の動きに興味を持ち、大きな視点に立ってそれを見渡すことができるようにとNGU NEWSの愛称に採用しました。

の方々と同じ講義を受けられるという魅力的な内容と先生方の勧めもあり、思い切つて行くことにしました。タイは以前旅行で行ったことがありましたが、どのような留学になるかは全く想像出来なくて、ただただワクワクしていました。正直に言うと、「英語の勉強に行くのになぜタイなのか」という疑問を抱きながらの参加でしたね。

留学中はどのようなプログラムで、どのような勉強をしましたか。

基本的には英語科の大学院の講義のうち2科目を選択して授業に参加でき、生活会話くらいのタイ語のレッスンを受けます。私は、英語のリーディングとライティングの講義を選択しました。リーディングでは、主に英語で書かれたエッセイや小論文などを題材に、主題は何か、どのような前提が隠れているか、結論は何か、論理的かといった論文の読み方を勉強し、ライティングでは、その小論文を具体的にどんな形式で書くかという勉強をしました。また、個人的にアメリカ文学の歴史などを教えてもらったり、学部の日本語科の講義やコンケン大学周辺にあるタイの中学校などを見学させていただいたりしました。

日本の大学と授業方法や学生の気質に違いはありましたか。

色々違うところがあつて最初は戸惑いました。授業方法は、私が名古屋学院大学の講義で受けるようなまず問題を考えながらやつてみて後でその解き方を解説するというのと違って、最初に方法を教えた後、時間制限内にさあやってみて！といわれることがありました。それに一気に読んだり書いたりする量が多い！課題の多さには結構苦労しました。

学生の気質は、日本の学生より真面目で勉強に熱心というのが第一印象。でも色々話していると、皆とても気さくで親切で、意外と時間にルーズだったりする面も。印象的だったのは勉強と遊びの時間をきっちり分けているところで、遊ぶと

きはおもいつき遊びけど勉強もとても一生懸命で、見習いたいなと思いました。

留学先での休日はどうに過ごされましたか。

実はひたすら寮でのんびりと疲れを癒すか、予習と課題に追われて図書館と寮の往復だったような気がしますが、時々クラスの友達に買い物や食事に連れて行ってもらったり、1人で中心街まで行つて街を散策したりしていました。本当は自力で近郊の観光スポットにも行つてみたかったのですが、言葉の不自由さに不安もあつて交通機関が上手く使えず断念しました。博物館やタイの寺院などは、むしろ平日の授業後、車で連れて行つてもらっていました。

留学中の出来事で一番心に残っていることは何ですか。

タイの学生が、日本という国やその文化に対して想像以上に興味を持っていたことでしょいか。タイでは日本のテレビ番組や漫画がたくさん輸入されていて、学校内にさえタイ語に翻訳された日本の漫画を中心にした貸本屋などもあり、人気もあるようでした。特に日本語科の学生たちの中には、私が日本人だとわかると「少し時間ありますか？一緒に話しましょう」と照れながらも積極的に声をかけてくれて、日本語で会話が出来ると喜んでくれました。たし、「ドラえもん」の歌はどういう意味なの？」なんて面白い質問を受けながら、私はタイのことをこんなには興味を持っていなかったと改めて思い知らされたりしました。

学部在学中に大学院の講義を受講できる「大学院進学コース」に所属されていますが、現在大学院のどのような講義を履修されていますか。

私が履修しているのは、モロウ先生の「アカデミック・スキル」とラゲラス先生の「英米文学特論」という講義です。「アカデミック・スキル」では実際の論文の読み方、書き方、調べ方を体系的に

学び、「英米文学特論」ではNervous Condition というアメリカ文学作品とその内容に関係のあるエッセイを、年間を通して精読しています。

実際に、大学院の講義を履修してどうですか。

学部の授業に比べ、やらなくてはならない課題の量や質がやっぱり違うなあと感じています。私はたつた二つの講義だけですが、院生のみなさんを見ていると本当にやるべきことがたくさんあつて、大変のようです。以前は、学部の授業が基礎で、院は応用というイメージを持っていたのですが、むしろ「勉強の仕方の基本」の大切さを見直すことのほうが多いですし、講義を受けるための英語力もまだまだ不十分だと痛感する毎日です。小人数の授業なので、みなさんの熱心さが直接伝わってきて、とても刺激的ですよ。



最後に、池沼さんの今後の抱負と、後輩にむけてのアドバイス(留学のすすめ等)をお願いします。

明確な将来の目標が無い今の私にとって、「勉強する」というのは時間とお金をかけた贅沢な「遊び」です。遊びとなれば、例えばスポーツやバズルみたいに、難しさが逆にあると思うものです。そんな遊びが出来るといふ今の時間を大切に、面白そうなおセミナーや活動にはできるだけ積極的に参加しつつ、楽しんでいきたいと思っています。留学もそのひとつです。異文化の中で過ごしながら日本とは違う考え方に触れ、知っていたようで知らなかった、自分がどんな人間で、どんなことが好きで、どんな考え方を持っているかということに気付かせてくれる絶好のチャンスを与えてくれます。こんな楽しい遊びは、時間のある学生のうちにやらなきゃ損！だと思います。

どうもありがとうございました。



学長に 小嶋博教授が就任

れば将来は必ずや拓けるものと信じています。

新任学長としては、伊藤理事長と力を合わせ名古屋学院大学の夢を達成するために邁進したいと決意しています。これから目指す私たちの方向は、在学している学生のみなさんが心から満足できる教育サービスを提供できるようになることです。学生のみなさんが大学生活を楽しみ、日々学ぶことに喜びを感じ、着実に力をつけて社会へ巣立っていくようになれば、当然ながら社会からの評価も高くなってきます。この目標を達成するにはどのようにすればよいかを検討していますが、これからは実践へ移してゆく段階を迎えようとしています。その際、常に、学生と社会という視点を見失うことのない政策の展開を図りたいと考えます。私どもは、学生のみなさん・父母の方々・同窓生・地域社会の期待に応えられるよう努力して参りますので、今後とも、皆様のご厚いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

名古屋学院大学は「敬神愛人」を建学の精神として開学されて以来、昨年11月で40年を経過しました。その間に多くの人材を社会に輩出してまいりましたが、今や大学を取り巻く環境は、これまで私たちが経験したことのない厳しい状況を迎えています。この状況は本学だけのことでなく、それぞれの大学が様々な問題を抱えており、本学も二層の飛躍をはかるため2007年4月の名古屋キャンパス開設を予定しています。一般企業であれば、競争で勝ち負けが明確になるのは日常的なことですが、大学の世界においても、これまでと違って競争原理が当然という時代になってきました。このようなときに、学長という重責を担うことになり責任の重さを痛感しています。幸いに、本学は、人材豊かな教職員を有し、さらには、大学を強く支えていただく外部の理事や評議員の方々、母校を熱く思う同窓会の面々が控えています。大学内部構成メンバーが一致団結して、外部の方々と協力し合いながら問題の解決へ全力をあげ

Topics

名古屋キャンパスについて



白鳥学舎(しろとり)

所在:名古屋市中熱田区熱田西町

敷地面積:16,237.6㎡ (4,911.8坪)

●主に、専門教育等2年生以上が学ぶ

●学校法人名古屋学院大学本部としての機能

●主要施設

教室、学術情報センター・図書館、学生食堂、学生会館、研究室、事務室、体育館、テニスコート

着工予定 2005年8月頃

竣工予定 2006年12月頃

開学 2007年4月

日比野学舎(ひびの)

所在:名古屋市中熱田区大宝三丁目101

敷地面積:908.00㎡ (275.2坪)

●主に、語学・情報科目を中心として1年生が学ぶ

●主要施設

教室、大学院関連施設、エクステンションセンター、軽食堂

着工予定 2005年10月頃

竣工予定 2006年12月頃

開学 2007年4月

名古屋キャンパス概要報告(1)

名古屋キャンパスは、ご覧のとおりとても交通の便と自然環境がよい場所に開設します。特に、日比野学舎は、地下鉄日比野駅に直結した通路で校舎に入ることができます。白鳥学舎は、日比野駅・西高蔵駅・神宮西駅の3つの地下鉄駅の中間に位置し、それぞれ歩いて5分程度です。また、金山総合駅やJR熱田駅、地下鉄六番町からも十分徒歩通学が可能で、名古屋駅からも20分程度の通学圏にあり、名古屋の都心の大学の中でも利便のよさでは最高の立地となります。

自然環境から見ても、南に白鳥庭園、東に白鳥公園、堀川を挟んで熱田神宮公園、北に名古屋国際会議場とその広場があり、とてもすばらしく勉学の場として優れた場所といえます。この通学利便と自然という2つの周辺環境がよいことが、名古屋キャンパスの大きな特徴です。

地域社会と共生した新しい大学を目指す

その半面、このすばらしい環境を守り、維持していくことが、名古屋学院大学にとってとても大きな責任と考えています。そのためには、地域との調和・関わりが重要となります。名古屋市の公園予定地を大学に貸していただいたこともあり、これからの大学のあり方の一つである市民開放型の大学として地域に溶け込んだ大学として展開していくことになります。

地域との調和について

まず、通学についてですが、下記の事項を遵守していく必要があります。

- ①通学は、地下鉄等公共交通機関を利用してください。
- ②白鳥・日比野学舎は、自動車・バイク・自転車による通学・通勤を禁止します。但し、白鳥学舎については自転車通学のみ申請によって許可することとします。

③白鳥学舎と日比野学舎間の自転車移動を禁止します。

④地下鉄駅周辺への迷惑駐輪は禁止します。

また、通学路、公園などへのタバコ・ごみのポイ捨てなどもしないようにしてください。

以上のことを大学の方針として制定し、学生への事前啓蒙を徹底したうえで、取り締まりも含め、違反者を罰するなど地域の住環境を守る体制を確立します。

地域との関わりについて

つぎに、現在でも展開している施設開放、地域貢献などを積極的に実施していきます。

- ①大学施設の開放=教室、図書館、食堂、売店、テニスコート、体育館などキャンパスを開放します。
- ②大学授業の提供=科目等履修生、エクステンション講座、資格取得講座、講演会、コンサート等の生涯学習の機会を提供します。
- ③地域活動=学生によるまちづくり活動を推進します。学生によるボランティア活動を推進します。

このように、地域住民にとっても大学にとっても双方ともメリットのある友好関係を築いていくことが、名古屋キャンパス設置を成功させる一番大切なことなのです。

※次のコスモラマで、白鳥・日比野学舎の建物各階の教室・事務室などの配置や、設備などについてご報告をする予定です。

第3回経済学部 卒業研究発表会

“卒業研究発表会に参加して”



経済学部長賞受賞 まきの しんたろう
経済学部経済学科4年 牧野 真太郎

私が卒業研究発表会に参加しようと思ったのは、昨年の卒業論文発表会を見たことに始まります。発表に対して、先生方だけではなく、学部生からも活発に意見が出る雰囲気の中で、自分も発表してみたいと思うようになりました。

この時期は、3年次の研究報告書の作成もしており、発表の流れや結論の導き方などがとても参考になりました。卒業論文発表を迎えるにあたってのプロセスでは、3年次の研究報告書を元に発表の流れを作成していきましました。プレゼンテーションを行うためには、事前の準備が相当必要であるとして、ゼミの先輩方を見ていたので分かっていました。そのため、発表のリハーサルや途中経過をゼミの時間を割いてもらうことで進めていきました。また、ゼミ以外の時間でも、ゼミ内での発表予定者と互いの発表のダメ出しをしました。研究内容だけではなく、どこで聴衆の興味を引くかなど、プレゼンテーション自体についてもダメ出しをしていきました。ゼミの仲間内でのダメ出しということもあり、

気兼ねなく意見を言い合うことができたので、着々と発表への準備を進めることができました。

発表会前日には、ゼミ仲間の家に泊まって明け方まで最後の詰めの作業を行いました。このように、入念な準備を行い、発表を迎えることとなりました。

当日、いつも通りできれば悔いはないと思っ発表に望みました。聴衆の中に、見慣れた同じゼミ生の顔も多く、緊張はしないと思っ高をくくっていたのですが、予想外の緊張により、相当焦った発表となつてしまいました。結局、残り時間3分程度の時点で発表を終えることとなり、本番で100%の力を出し切る難しさを痛感しました。しかし、先生を含め3人の方が質問してくれたおかげで、自分の言い足りなかった部分を補足することができました。もし、質問が出なかったら中途半端な発表で終わってしまったと思うので、本当に助かりました。何はともあれ、無事発表を終えることができたので良かったです。

発表を終えて、この卒業研究発表会への参加は、3つの利点があると思っしました。まず1つ目は、プレゼンテーションの総合的なスキルアップです。PowerPointのスキルや大勢の聴衆の前で発表する度胸、分かりやすく伝える能力が養われるのではないかなと思っします。2つ目は、卒業論文の作成がスムーズになることです。私自身この発表をするにあたり、結論までの流れや各種資料をまとめることができたため、卒業論文を完成させる上で大きなアドバンテージを得られたと感っしています。3つ目は、大学時代の記念になるということ。各種参加賞を貰えることもそうですが、最終学年を迎えた最後の記念として、また、ゼミでの活動の集大成を見せる良い機会として、絶好の舞台であると思っします。

発表会への参加は、このような利点があるだけでなく、自分自身の能力を試す良い機会になると思っします。卒業研究を履修する学部生は、是非参加して良い賞を目指し頑張ってみてはいかがでしょうか。それが必ずや自らの成長に繋がる筈です。

2004年度経済学部卒業研究発表会表彰者及び発表演題一覧

経済学部長賞	牧野真太郎	児島ゼミ	インターネット取引による証券市場の変化
優秀賞	井野寿恵	児島ゼミ	CMSによるWebサイト管理の研究 ～XOOPSによる試論～
優秀賞	伊藤嘉紘	木船ゼミ	挑戦し続けるHONDA
佳作	海野哲生	荻原ゼミ	不登校児をケアする環境について
佳作	鈴木智子	水野ゼミ	学生主体のまちづくり活動における比較と展望
佳作	戸田豊子	十名ゼミ	日本における少子化とその克服に向けて
	今野恭孝	李ゼミ	在日朝鮮人の日本における教育問題
	石津勝正	児島ゼミ	テレビ番組作成言語としてのTVMLの研究
	石原万貴	岡澤ゼミ	動物愛護の問題点と課題
	浦野宏至	家本ゼミ	ソ連スターリン体制の研究
	小川英高	名城ゼミ	イスラム教について
	鈴木陽子	小野ゼミ	混合診療導入の是非について
	村雲正和	児島ゼミ	BtoCにおける消費者保護の現状と課題
	渡辺将人	並井ゼミ	日産の100年企業への挑戦
	曲田勝	十名ゼミ	現代日本の犯罪と住みよい街創り ～来日外国人の犯罪とあるべき共存を求めて～
	浅井佑典	三枝ゼミ	少年犯罪の現状と対策
	奥出直和	三枝ゼミ	環境問題(ゴミ問題)
	日比俊孝	三枝ゼミ	改正少年法の妥当性とそのあり方
	安井友章	三枝ゼミ	

経済学部では、ゼミを通して頑張っている学生の発表の場として、またゼミの研究内容を広く知らせる機会として「卒業研究発表会」を昨年企画し、昨年と大きな成果をあげました。今年度も昨年の12月2日(木)～7日(火)の3年生のゼミ時間(4時限目)を利用して開催しました。経済学部3年生全員が先輩たちの発表を聴くという形式で行いました。栄光館の他、合同教室の3教室を使い、4日間で全18組の発表がありました。ほとんどがパソコンを使ったパワーポイントでの発表を行い、本学のIT教育の水準の高さを示すことになりました。また、発表内容も情報・法律・政策・産業・街づくりなど多くの分野におよび、学生の研究範囲も幅広くなっています。表彰式は、12月15日にチャペルで行われ、講師とともに各賞が発表されました。今年も、すべての発表者をビデオ録画し、学術情報センターでDVDに編集して発表者の記念品としました。さらに、表彰された発表は、学内LANでネット配信され、来年度以降のプレゼンテーションの「生きた教材」となります。今後も、学生が積極的に参加し、内容が充実していくような「卒業研究発表会」になることを期待します。

大学基準協会による 認証評価を受けて

国公私立の如何を問わず、全ての大学は自己点検・評価を行い、それに基づいて認証評価機関による認証評価を定期的に受けることが義務付けられています。名古屋学院大学は、2004年度、大学基準協会による認証評価を受けました。2003年3月に同協会に送ったダンボール箱11個にのぼる資料は丸1年をかけて精細に分析され、この年度末に最終評価が出ます。その結果は文部科学大臣に報告され、官報で公表されることになっています。

認証評価は4部門——①建学の精神、及び大学・各研究科・各学部理念、②教育の実体、③研究活動の状況、④大学の管理・運営（財務

を含む）——に分けて行われ、8月末に、資料の精査による指摘や質問事項（111頁）が同協会から寄せられ、本学はそれに対して詳しく回答・補足説明したもの（72頁）を作成して送りました。秋には2回の実地視察があり、年末には認証評価案が届けられました。この評価案は12頁に及び、最終の認証評価の元になるものであって、本学に対する提言・助言・勧告からなるものです。中には解決が困難なものもありますが、指摘された事項はいずれも本学の改善に役立つものです。全学点検委員会は評価案に対して6頁の意見書と5頁の追加資料を送りました。はたし



全学点検評価委員会
委員長 新熊 清

てどんな認証評価が下されるか、今は、人事を尽くして天命を待つ、の心境です。

認証評価の結果が公表される時を目前にして、その内容を予想して軽々に述べるべきではありません。従って、これまでに指摘された数々の事項を具体的に紹介することは現時点では差控えますが、総論的に言えることが4つあります。第1点は、建学の精神の全学的な認識と誠実な実践です。このことが大学存立の根幹であるということが認証評価の基調になっています。第2点は、教育内容の充実と教育方法の適切化です。建学の精神に基づいてどのような内容の教育をどのように行っているか、カリキュラム・シラバス・FD活動・授業評価等多岐にわたって教育機関としての本学の現実が厳しく分析されていました。第3点は、研究機関としての活動です。教員一人一人の研究業績、大学としてのプロジェクト研究、国内外の研究者・研究機関との学術交流等々、研究機関としての本学の充実が問われていました。第4点は財務の健全化と透明性の増進でした。

認証評価で良い結果を得ることは重要ですが、それ以上に大切なことは、これを契機に本学が教育・研究機関として更に充実・発展することです。そのためには、どのような教育をどのようにして、どのような青年を育てるのか、という議論を全学的に展開することが不可欠です。

認証評価を受けるに当たって多くの方々に御協力を願いました。各位に深謝申し上げます。

（学術情報センター長 外国語学部教授）

NGUと地域貢献

21世紀の大学がめざすもの

いまから40年前に神の御名によって建てられた名古屋学院大学は、地域社会に貢献できる人材の養成を「敬神愛人」という建学の精神の具現化として標榜し、その実現に努力してきた。草創期に研究所を立ち上げ、他に先駆けて図書館を市民に公開し、瀬戸の地の大学として陶磁器産業研究を牽引し、相当数の公開講座を開催して、地域の大学としての努力を怠らなかつた。そういう意味では、昨今新しい課題のように言われている大学の地域貢献研究は、研究・教育とともに、当初



大学コンソーシアムの活動拠点「バルティセと」
2005年2月19日オープン。オープン当日は20,000人が訪れ、最高のスタートとなった。

Topics

から本学を支える三本柱であった。もともと学内においてそのことを正當に評価する仕組みはなく、教職員の個人的な努力の積み重ねのみが地域貢献のよりどころであったことは否めない。その原因は、大学が組織として地域貢献に取り組むことの意義がまだよくわかっていなかったからに他ならない。世の中全体がそんな時代でもあった。しかし今、NGUは地域の先頭に立つて、新たな活動に立ち向かっている。

現代の大学がもつとも必要としているのは情報発信力である。大学を利用し、自発的に学ぶのは、いわゆる18歳人口からのお客様ばかりではなく、学びに目覚めた多くの社会人でもある。そのことは大学が学校教育の閉ざされた枠から脱皮して、ひとつには生涯学習の軸を持つこと、そしてもうひとつは地域貢献型産官学連携の窓口となることである。それは同時に、学生をキャンパスから解き放ち、社会との交流の場の中におくことで、新しい刺激に満ちた学習環境を創造することでもある。NGUのもつ知的情報と学習環境を社会に提供するとともに、社会の刺激を学内に誘導することで、大学は生まれ変わることができるのである。エクステンションセンターはそのための装置である。エクステンション(外延)とは単なる外的サービスやそのことによる宣伝を目指すものではない。大学と地域社会との関係を

肯定的に変えることで、大学に新たな使命をもたらし、社会的存在としての意義を高めることができる。教員の知的貢献としての公開講座や地域連携事業、本学の教育環境を活用した大学開放事業、愛知万博やまちづくりあるいは地域教育力の増強にたいする教職員、学生の研究および連携協力、それらの活動が地域における大学の価値を高め、それが大学の評価の重要な部分になる時代がそこまでやってきているのである。

とはいえ、一つの大学にできることには限りがある。近隣大学との協力でそれを乗り越えようというのが、本学が提唱し主導する「大学コンソーシアムせと」である。いまのところ本学を中心に6大学と瀬戸市が対等に参加し、地域活性化事業と大学共同事業に取り組み始めている。その核となる瀬戸駅前ビル(PartiSeio)も完成し、愛・地球博の開催と合わせて地域活性化に二役買っている。街の元気の源にコンソーシアム傘下の大学生の力があられ、大学の知恵がある。そして元気な街が大学に力をくれる。大学中心の地域連携の形がそこにあり、そしてその中心でNGUは人間愛を高らかに歌い上げるのである。今後、NGUは名古屋にも大きな拠点を持つ。そこでも地域貢献の新たな仕事が続いているはずだ。キリスト教主義学校NGUにとって、地域貢献は終わることのない使命である。



きむら こうしん
木村 光伸
(エクステンションセンター長・
経済学部教授)



Essay 23

かつて外から見ていた 「名古屋」

あるが とし ゆ き
有賀 敏之
(商学部助教授)



今からお話することは、トヨタがまだ今日のような世界のトヨタではなく、かつて三河地方のトヨタではないまでも、まだ東海地方のローカル・メーカーとしての色彩を帯びていた頃の話です。当時、日産はまだトヨタに対して五分の意識でいたものです。創立間もない名古屋学院大学は愛知大・南山大と並ぶこの地域屈指の有力大学であり、熊谷組の手で、瀬戸の新キャンパス(現在の校地)の建築工事が進行していました。今とはまるで正反対の状況ですね。

さて、その頃の私は小学校に上がるかどうかの子どもで、奥三河の茶臼山のさ

らに向こう側にいました。1学年に20名しかない山村です。父は数少ない転勤族で、周りの友だちの多くの家業は農業でした。村からバスで小一時間揺られた先に、旧国鉄(現JR東海)飯田線の駅があり、そこから北に向かつて、郡の中心都市である飯田市に出るのにさらに1時間ほどかかりました。月に二度ほど、祖母に手を引かれて飯田に買い物に出るのが、どれほど楽しかったことでしょう。

友だちの多くは、飯田線で数時間南へ行った果ての豊橋や豊川に身内がいました。

彼らが「親類」と呼んでいたその身内を、長い休みには訪ねているとのことでした。私の父母の実家は先の飯田市よりはるかに北方にありましたが、私には豊橋や豊川の親類はおらず、彼らの話を羨ましく聞くばかりでした。日本の地理を習う前の学童にも、豊橋や豊川が飯田よりかはるかに都会であることは理解できました。そのさらに先に大都会「名古屋」(人々は冒頭の「な」にアクセントを置かず、フラットに発音していました)があるという話でしたが、そこから先は学童の想像力の及ぶところではありませんでした。地理を学ぶ前の、都会を見たことのない子どもには、同様に訪れたことのない「東京」と「名古屋」の違いはよく分かりはしませんでした。

私とその村にいた数年の間にも、農業を止めて村から豊橋や豊川に出て行く人が後を絶ちませんでした。良くしてくれ



ていた何才か上のお姉さんが、家財道具一式を小型トラックに積んで二家で村を出て行くのを、いつまでも手を振って見送ったことは忘れられない思い出です。

山間僻地では朝日と夕日は日本アルプスにかかつてしまい、途中から現れて途中で消えていきました。今でも名古屋や瀬戸のような平地で夕陽を見ると、それが暮れなずんで容易に消えず、地平の大気にけがる様に感動し、夕刻には啓明館の上や六合館4階の果てに走っていつかは、完全に没するまで見とれています。今こうして「名古屋」にいることも、時々信じられなくなりますが、前任校は関東の国立大で、東京も何度となく見ているはずなのに。

私の話はこれで終わりです。以下は専門の先生方のための付け足しですので、読み飛ばしてください。以上の話の本当のタイトルは、「高度成長期の三大大都市の縁辺における社会変化」ということでした。友だちの「親類」とは、彼らの父母の長兄が農家を嗣ぎ、下の兄弟姉妹が名古屋の衛星都市に流入していたことを示しています。人口の多くを占めた農民、その過半を占めた小作農は、念願の自前の農地を手に入れてからわずか十数年のうちにそれを惜しげもなく放擲し、各地の人口の結節点に引き寄せられていったのです。ほとんどが工場労働者として。このプロセスを近代初期の西欧、80年代の台湾・韓国、今日の中国沿海部と対比したときに、言えることは何でしょうか。



私の講義日誌

「キリスト教学」

キリスト教学の教師として名古屋学院大学に赴任して約2年。振り返ってみますと、授業やチャペルで多くの学生に接する機会が与えられ、その若く瑞々しい感性に触れて、感じ入ることの多い日々でした。このようにな至福の時間が与えられたのは、おそらく担当科目そのものの性質と関係があるのでしよう。

私が担当するのは「聖書的人間観」「キリスト教と歴史」そして「キリスト教と世界」といういわゆるキリスト教学の科目で、建学の精神であるキリスト教の精神を学ぶことをその目的としています。もちろん「建学の精神」とはいつても、学生たちにとってそれは自明なことではなく、名古屋学院大学がキリスト教主義であることは知っていますが、キリスト教や聖書に親しんだことのある学生はごくわずかで、「どうして大学でキリ

むらかみ

村上みか

担当者

キリスト教学担当



スト教を学ばなくてはならないの？」とか「聖書には道徳やきれいなことばかり書かれているのでしょうか？」と思っている学生も少なからずあるようです。そのような学生たちを前にして、聖書というのは決して道徳的なものでも、きれいなことを並べたものでもなく、私たちが日々模索しながら生きていく中でいろいろなヒントやメッセージを与えてくれる面白い書物だと伝えていくこと——それが私に与えられた課題だと思っています。

そのために、まず「聖書的人間観」の授業で、聖書が「人間」をどう理解しているのかを取り上げます。「人間とは何か」そしてその人間が「どのようにして人として真実の生を生きるものなのか」について考え、限界をもった人間が、その限界を示されつつ、常に新しく生きる可能性へと開かれる生があり方を知ります。

そしてこの聖書のメッセージが、その後

Campus Now

二千年のキリスト教の歴史の中でどのように受け止められ、表現され、生きられたかを、「キリスト教と歴史」と「キリスト教と世界」で取り上げます。たとえば、十六世紀という世界が大きく揺れ動いた時代に、迫害の中で宗教改革者になり、人々に聖書の言葉を語り続けたカルヴァンの生涯を学び、あるいはドイツの教会音楽家、J.S.バッハの「マタイ受難曲」を聴いて、そこに表現された人間の罪に対する深い悲しみを知ります。また二十世紀のはじめ、ドイツのキリスト者たちが第一次大戦やナチズムを支持するなかで、スイスの神学者カール・バルトが人間の深い罪を認識するに至り、彼らのもつ楽観的な人間観を徹底して批判し、大学教授の職を追われつつも抵抗運動を繰り返していった様子を学びます。

試験やレポート、そしてチャペルアワーの感想を見る限り、多くの学生は聖書やキリスト教の理解を受け止め、それと向かい合おうとする様子がうかがえます。なかにはその受け取り方に優れたセンスを示す学生もいて、神学者になればその才能を発揮するだろうと思わされることもしばしばです。このように豊かな感性をもった学生たちがより良い理解に至るために、どのようなテーマを取り上げ、どのような言葉で語るべきか、今なお模索の中にあります。ただ、これまでの授業を通じて、少々難しくても本質的な事柄を示すと、学生たちは確実に反応することを知りました。そのような本質に迫る授業を目指して、努力を続けていきたいと思っています。

(商学部助教授)

希望館(きぼうかん)

「患難は忍耐を生み出し、忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出すことを、知っているからである。そして、希望は失望に終わることはない。」(ローマ人への手紙第5章3-5節)

2階はキャンパスホールとして学生課、教務課、キャリアセンターなど学生のみなさんへのサービスフロアとなっています。この建物は外国語学部の開設とともに竣工し、キリスト教主義大学の原点を忘れることなく新たな出発を祈念すべく、希望館と名づけられました。「希望する」ということは、現在いまだ実現していないことを、実現させたいと思うことであり、それには努力(苦痛)も伴います。学生のみなさんのキャンパスライフでの希望が少しでもスムーズに実現できるよう、それぞれの部署でみなさんにサービスを提供しようとしている職員に積極的におねがいください。



希望館 (きぼうかん)

チャペルの向かいに位置し、学生クラブによる演奏会が行われるときには、希望館の前の階段は一転してギャラリーとなり多くの学生が集う。キャンパスホールは4階までの吹き抜けとなっており、天井は自然採光を採り入れたガラス張りとなっている。1階には留学などの実務を行う国際交流センター、2階には学生課、教務課、キャリアセンターのほか、保健室、学生相談室がある。3階は総務課、財務課、4階は学長室、学部長室のほか理事長室、事務局長室を配し、大学の本部棟としての機能をもつ。

■ 総延べ面積3,849.63㎡ 1988年竣工



一人一人が将来に向かって

シリーズCircle短 信

体 育 会

硬式野球部



硬式野球部は大学開学当初に設立された伝統のある部で、現在は70名を超える部員で構成しています。愛知大学野球連盟に加盟し、リーグ戦を制覇して全日本大学選手権に出場した実績もあります。最近では、2000年から2003年までの8シーズン連続して1部リーグでプレーをしています。

現在はⅡ部リーグに降格したものの、部員一人一人が目標を持って日々努力を続けています。Ⅰ部リーグで優勝を狙えるチームを作るため、昨年の秋季リーグ戦では1・2年生をメインとして試合を行なってきました。目の成績だけに与えられ、将来に向かって期待の出来るチームになりつつあります。

私自身は今年が最後の年であり、新4年生がチームをまとめ、引っ張っていくよう努めたいと思います。そしてⅠ部リーグへの復帰と、神宮球場でのプレーが実現できるよう頑張っていきます。チームの特徴は、明るい雰囲気、先輩・後輩がともに仲が良く、なんでも相談ができ、私生活でも楽しい付き合いができることです。すでに新1年生も練習に参加しており、宮崎県での合宿も終えて最終調整に入っています。Ⅰ部リーグ復帰を必ず成し遂げますので、皆さんの絶大な声援をお願いいたします。

(主将 商学部3年 渡辺豊見夫)

1 **話せる中国語(初級)**

- 講師 程群
- 場所 名古屋学院大学さかえサテライト
- 日時 5月11日(水)から毎週水曜日 全10回 13:30~15:00
- 受講料 5,000円

話せる中国語(中級・上級)

- 講師 程群
- 場所 名古屋学院大学さかえサテライト
- 日時 10月5日(水)から毎週水曜日 全10回 13:30~15:00
- 受講料 5,000円

おもてなし英語(初級)

- 講師 John A. Roskoski Jr.
- 場所 名古屋学院大学さかえサテライト
- 日時 5月11日(水)から毎週水曜日 全10回 10:30~12:00
- 受講料 5,000円

おもてなし英語(中級・上級)

- 講師 John A. Roskoski Jr.
- 場所 名古屋学院大学さかえサテライト
- 日時 10月5日(水)から毎週水曜日 全10回 10:30~12:00
- 受講料 5,000円

2 **日本企業の中国進出動向と中国ビジネス**

- 講師 庵原孝文
- 場所 名古屋学院大学さかえサテライト
- 日時 1月12日(木)、19日(木) 全2回 13:30~15:00
- 受講料 無料

日本におけるドイツ年記念講座 「ドイツ統一の現状」

- 講師 名城邦夫、西土彰一郎、小林甲一、中村義寿
- 場所 名古屋学院大学さかえサテライト
- 日時 7月13日(水)から毎週水曜日 全4回 15:30~17:00
- 受講料 無料

3 **源義経をめぐる人々**

- 講師 早川厚一、曾我良成、松園齊、松島周一
- 場所 名古屋学院大学さかえサテライト
- 日時 5月10日(火)から毎週火曜日 全4回 10:00~11:30
- 受講料 無料

日常の法律問題

- 講師 西土彰一郎、飯塚篤子
- 場所 名古屋学院大学さかえサテライト
- 日時 6月7日(火)から毎週火曜日 全4回 18:30~20:00
- 受講料 無料

少子高齢化社会での家庭用ロボットの活用

- 講師 木村憲次
- 場所 名古屋学院大学さかえサテライト
- 日時 7月5日(火)から毎週火曜日 全3回 18:30~20:00
- 受講料 無料

やきもの古代の技法と価値

- 講師 八木三生
- 場所 名古屋学院大学さかえサテライト
- 日時 10月11日(火)から毎週火曜日 全4回 15:30~17:00
- 受講料 無料

日本語再発見

- 講師 今仁生美
- 場所 名古屋学院大学さかえサテライト
- 日時 10月19日(水)から毎週水曜日 全3回 15:30~17:00
- 受講料 無料

風の音楽 - トッカータとフーガを弾こう -

- 講師 有田知子
- 場所 名古屋学院大学チャペル
- 日時 9月下旬から12月上旬 全4回 15:00~16:30
- 受講料 5,000円

4 **美しいヴァイオリンの音色及び演奏法**

- 講師 伊藤美佐子
- 場所 名古屋学院大学さかえサテライト
- 日時 6月15日(水)から毎週水曜日 全4回 15:30~17:00
- 受講料 無料

クリスマスを学ぶ

- 講師 武岡洋治、葛井義憲、村上みか、福井智
- 場所 名古屋学院大学さかえサテライト
- 日時 11月30日(水)から毎週水曜日 全4回 15:30~17:00
- 受講料 無料

シティーカレッジ 2005
名古屋学院大学

申込み・問い合わせ先
名古屋学院大学エクステンションセンター
TEL 0561-42-0317 FAX 0561-42-1143

「祈り」「交わり」「学び」「情報」

キリスト教センター
ふくい さとる
福井 智



チャペルのかたすみで⑫

祈り

チャペルアワー
祈りの会
新入生歓迎チャペル
クリスマスチャペル
大学クリスマス礼拝
創立記念日礼拝
各種表彰式典
記念式典

宗教講演会
聖書研究会
キリスト教作家を読む会
聖書を読む会
エクステンション講座
麦粒
チャペルブックレット
キリスト教質問コーナー

学び

本学の建学の精神「敬神愛人」の理念は、大学の様々な分野において展開されています。キリスト教センターでは、チャペルアワー、宗教講演会、チャペルコンサートをはじめとした具体的なプログラムを多数用意し、その具現化に取り組んでいます。その働きを、祈り、交わり、学び、情報に区分して見ますと計38項目に及びます。ひとつひとつの活動が学生にとって生きる喜びの発見につながるとともに、大学全体の抱負所として発展していくことを願っています。これらの活動については、本紙などで順次ご報告させていただきます。予定ですが、活動の詳細をお知りになりたい場合や、冊子、情報紙などお入り用の場合はキリスト教センターまでご連絡ください。

情報

敬神愛人

NGUチャペルコンサート
ゴスペルタイム
アフタヌーンコンサート
学生サポートセンター
オルガン講座
オルガンCD
ギターで歌おう
クリスマスリース作り
NGU子どもクリスマス会
卒業生結婚式
キリスト教学校教育同盟

NGUチャペル案内
チャペルニュース
Invitation to chapel紙
学生サポートセンター案内
ポスター
朝の宗教音楽放送
ビデオ・CDコーナー
チャペル掲示板
キリスト新聞
ラジオ・キリストへの時間
新聞「キリスト教学校教育」

交わり

2004 本学の動き

この1年

4月

●春学期開始(4/1) ●入学式・オリエンテーション・ガイダンス・履修登録(4/1) ●春学期授業開始(4/8) ●新入生合宿ガイダンス(4/19) ●春の留学フェア(4/20) ●大学院通信教育課程開講式(4/29)

6月

●留学生別科フィールド・トリップ(伊勢・志摩)(6/2) ●第44回NGUチャペルコンサート<今井奈緒子オルガンコンサート>(6/5) ●宗教講演会<講師:日本基督教団神奈川教区寿センター主事三森妃佐子>(6/8) ●オープンキャンパス(6/13) ●父母会役員会・総会(6/26)

7月

●春学期授業終了(7/14) ●留学生別科修了式(7/16) ●オープンキャンパス(7/25) ●英語教育公開講演会<講師:サンフランシスコ州立大学教授 サンドラ・マッケイ>(7/18) ●英語教育セミナー<講師:サンフランシスコ州立大学教授 サンドラ・マッケイ>(7/19)

8月

●親子陶芸教室(8/1) ●オープンキャンパス(8/10) ●AO入試体験入学(8/21~23) ●父母懇談会(岡山、浜松、松本)(8/28)

9月

●父母懇談会(金沢、津、岐阜)(9/11) ●留学生別科入学式(9/13) ●オリエンテーション・ガイダンス・履修登録(9/17) ●大学院博士前期課程第1期入試・博士後期課程秋学期入試[経営政策専攻](9/18) ●大学院修士課程第1期入試[経済学専攻・英語学専攻・中国語学専攻](9/25) ●父母懇談会(本学)(9/25) ●秋学期授業開始(9/27) ●春学期卒業式・修了式(9/29)

10月

●第7回高校生英語スピーチコンテスト(10/10) ●シティーカレッジ2004 特別講座「ゆっくり歩こうな」<講師:止揚学園 福井達雨>(10/14) ●シティーカレッジ2004 創立記念講演会「次なる40年に向かって―新価値の創造」<講師:前三重県知事 北川正恭>(10/15) ●創立記念日(10/15) ●AO入試(10/16) ●編入学試験<前期>・特別入試<外国人留学生前期>(10/16) ●秋の留学フェア(10/21) ●大学院通信教育課程第1期入試[英語学専攻](10/24) ●留学生別科フィールド・トリップ(白川郷・金沢)(10/26) ●第40回大学祭・陶芸館まつり・在学生による大学説明会(10/29)

11月

●LACワークショップ<講師:林 光洋>(11/10) ●推薦入試<一般・スポーツ>(11/13) ●推薦入試<一般・指定校>(11/14) ●LACワークショップ<講師:伊澤俊泰>(11/24)

12月

●第45回NGUチャペルコンサート<演奏者:ロドルフォ ベラッティ レナード バヤルド>(12/4) ●LACワークショップ<講師:程鵬>(12/15) ●クリスマスチャペル(12/17) ●留学生別科修了式(12/17) ●クリスマスチャペル(12/21) ●子供クリスマス礼拝(12/25) ●市民クリスマス礼拝・キリスト降誕祭(12/25)

1月

●秋学期授業終了(1/12)

2月

●一般入試<前期>(2/1) ●大学院修士課程第1期入試[経済学専攻・英語学専攻・中国語学専攻](2/5) ●大学院博士前期課程第1期入試[経営政策専攻](2/12) ●大学院通信教育課程第1期入試[英語学専攻](2/13) ●大学院博士後期課程入試[経営政策専攻](2/13) ●一般入試<後期A日程>(2/27)

3月

●一般入試<後期B日程>(3/13) ●学位記授与式・修了式(3/15)

2004年度学生部長表彰

2004年度の学生部長表彰が、昨年12月15日希望館第3会議室において行われました。学生部長表彰は、毎年スポーツ・文化・社会活動などを通じて、顕著な成果をあげた団体や個人を、選考し表彰するものです。今年度は、団体4クラブ、個人16名が選ばれ、学生部長から賞状と記念品が授与されました。

表彰された団体、個人のいずれもが優れた成績・活動が評価されたものです。全体的に、クラブ活動が低迷してきている中で、馬術部・準硬式野球部は、全国大会に出場し、本学の名を高めた功績は大きなものがあります。また、軽音楽部・人コミュ倶楽部の年間を通じて地元のボランティア活動・商店街活性化活動での地域貢献は賞賛すべきものです。新しい年度での体育会・文化会の各



クラブ活動をはじめ、学生諸君の更なる飛躍に期待します。表彰者および団体は次のとおりです。

学生部長表彰 課外活動成績優秀者

団体表彰

○馬術部 ○準硬式野球部 ○軽音楽部 ○人コミュ倶楽部

個人表彰

ボクシング部

山本敦(外3年) / 水野雄三(商2年)

スキー部

植崎裕也(経4年) / 西尾昭範(外3年)

白野健一(商4年)

日本拳法部

野田卓志(経2年) / 伊藤貴紀(経3年)

浅谷真希(商2年)

馬術部

村井康式(経3年) / 池田二清(経3年)

荻山友之(商4年)

空手部

堀博征(経3年)

準硬式野球部

紅林健太(経3年)

アーチェリー部

坂井銀河(経1年)

硬式野球部

青井隆之(経4年)

ゴルフ部

野杉政夫(経3年)

2004年度父母懇談会が盛会に終了

今年度の父母懇談会は、大学会場を始めて7会場で開催しましたが、多数のご父母の参加をいただき無事終了しました。懇談会では、大学の近況をご報告させていただくとともに、ご父母のみなさまと本学教職員が膝をまじえて、学生のみなさんの学業の状況や課外活動、学生生活、また就職など将来の進路について相談や懇談をさせていただきました。会場別参加状況は右表のとおりです。

日時	会場	参加者数
8月28日(土)	岡山	17名
	浜松	79名
	松本	12名
9月11日(土)	金沢	19名
	岐阜	39名
	津	21名
9月25日(土)	大学	237名
	合計	424名

学部・大学院952名が卒業および修了

2004年度学位記(卒業式)授与式が3月15日(火)午前10時30分から栄光館で挙行されました。卒業式の風物詩となった女子学生のはかま姿に大学は一段と華やき、後輩や、ともに出席したご父母から祝福を受けていました。今年度卒業生および修了者は次のとおりでした。

●学部・学科

経済学部経済学科	293名
経済学部政策学科	116名
商学部商学科	266名
外国語学部英米語学科	148名
外国語学部中国語学科	34名

●大学院

経済経営研究科経済学専攻	5名
経営政策専攻(博士前期課程)	62名
経営政策専攻(博士後期課程)	1名
外国語学研究科英語学専攻	7名
中国語学専攻	3名
通信制英語学専攻	11名
留学生別科	6名

学長表彰で12名が表彰

4年間の学業成績が極めて優秀で、他の学生のみならずの模範となる学生を表彰する学長表彰式が、3月9日(水)午前11時からチャペル礼拝堂で挙行されました。学長を始めとして各学部長、ゼミ担当教員も出席して、祝辞を受けるとともに表彰状と記念品が授与されました。

●経済学部経済学科(3名)

岩泉正彦、佐藤由季、竹内勝彦

●経済学部政策学科(2名)

森宗洋、山田英津子

●商学部商学科(3名)

大林恵美子、佐藤昌子、季正美

●外国語学部英米語学科(3名)

杉浦愛、柴田理加子、池沼みちる

●外国語学部中国語学科(1名)

石川結実子



山崎誉雄教授が最終講義

3月末で定年退職となられる経済学部教授山崎誉雄先生の最終講義が、12月16日(木)2限F2教室において行われました。「最終講義」は、「金融論」の講義を通常授業のまよめの形で行われました。最後に、将来「経済学士」と呼ばれる学生たちへの強い願いを込めて、経済学を学ぶことの意味や姿勢、喜びを自分の経験を交えて話されました。山崎誉雄教授は、1964年の本学開学と同時に経済学部就任されて以来41年間、学部教育の他、理事、学部長、大学院経済経営研究科長などの



山崎誉雄教授 12月16日(木)2限 F2教室

役職を歴任され、大学の発展に力を尽くしていただきました。当日は、萩原学部長から略歴紹介があり、多数の学生、教職員の出席のもと最終講義が行われました。講義終了後、花束が贈呈され、出席者と記念写真の撮影が行われました。

なお、最終講義は開講されませんでした。したが、経済学部の吉田宜路教授、商学部の明田安正助教授も定年退職を迎えられました。

長年にわたり本学の発展にご尽力をいただいた先生方にこそよりお礼申し上げます。

英語・中国語スピーチコンテストを開催

昨年11月26日(水)、英語と中国語のスピーチコンテストが1L教室で開催されました。出場者は英語32名、中国語15名で、それぞれ英語、中国語担当教員が審査を行い、次のみなさんが入賞し、表彰状と副賞が授与されました。入賞者は次のみなさんです。

英語部門

最優秀賞	松本隆志	商学科3年
優秀賞	小島亜矢子	経済学科4年
優秀賞	今野恭孝	政策学科4年
優秀賞	高橋千里	英米語学科2年

中国語部門

最優秀賞	三浦 忠(上級)	中国語学科1年
優秀賞	和田琴絵(中級)	中国語学科1年
優秀賞	富永裕子(上級)	中国語学科1年
敢闘賞	稲垣雅也(中級)	中国語学科2年

2005年度資格取得講座案内

2005年度開講されます資格取得講座・公務員講座および講座別のガイダンスは次のとおりです。受講にあたっては日程をよく確認して出席してください。

2005年度 開講講座一覧					
開催日	時間	ガイダンス会場	資格名など	ガイダンス会場	資格名など
4月 12日(火) 13日(水)	12:50 ~ 13:30	401教室	TOEIC	404教室	ビジネス実務法務
			色彩能力検定		販売士
			マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト (Word, Excel, PowerPoint)		日商簿記
		402教室	ビジネス能力検定		ホームヘルパー
			客室乗務員・グランドスタッフ	505教室	旅行業務取扱管理者
			秘書検定		通関士
			初級システムアドミニストレータ	506教室	福祉環境コーディネーター
		403教室	宅地建物取引主任者	507教室	公務員講座
			法学検定	508教室	資格講座・公務員講座についての相談コーナー (キャリアセンタースタッフが相談・問合せに応じます。)
			行政書士		

2005年度父母懇談会 および父母会総会の 開催について

本学では、ご父母のみなさまと教職員とが直接お目にかかつて、学生のみなさんについての相談ごとについてのお話をお聞きしたり、大学の教育について報告させていただく、父母懇談会を次のスケジュールで開催しております。詳細については別途ご案内いたしますが、多くのご父母のご出席をお待ちいたしております。

開催日	開催地
9月3日(土)	浜松
	岡山
	四日市
9月10日(土)	金沢
	岐阜
9月17日(土)	大学会場

また、父母会総会は6月25日(土)本学で開催予定ですが、別途案内をさせていただきます。

2005年4月～9月 行事予定

3月

- 26日(土) 大学院開講式
- 30日(水) 健康診断(4年生以上)

4月

- 1日(金) 入学式、新入生オリエンテーション
- 4日(月) 新入生各種ガイダンス・歓迎行事[→7日(木)]
新入生ノートパソコン配布[→6日(水)]
健康診断(新入生)[→6日(水)]
履修登録(2年生以上)[→7日(木)]
- 6日(水) 履修登録(新入生)[→8日(金)]
- 7日(木) 奨学金説明会
- 8日(金) 新入生合宿ガイダンス(経済学部)[→9日(土)]
- 9日(土) 新入生合宿ガイダンス(商学部)[→10日(日)]
- 10日(日) 大学院通信教育課程開講式
- 11日(月) 春学期授業開始
- 12日(火) 資格講座・公務員講座ガイダンス[→13日(水)]
- 27日(水) TOEFL-LTP [国際交流センター]

5月

- 2日(月) 臨時休講
- 14日(土) 新入生合宿ガイダンス(外国語学部)[→15日(日)]
- 18日(水) TOEFL-LTP
- 19日(木) 健康診断(2・3年生)[→20日(金)]
中旬 チャペルコンサート
人気雑誌リサイクル展(図書館)

6月

- 上旬 春季献血運動(体育会主催)
- 8日(水) 学生大会(学生自治会)午後休講
- 中旬 学部長表彰
学生論文コンクール募集(総合研究所)
- 25日(土) 父母会役員会・総会

7月

- 13日(水) 春学期授業終了
- 18日(月) 春学期定期試験[→29日(金)]
(18日臨時開講:海の日)
- 14日(木) 留学生別科修了式
- 24日(日) オープンキャンパス
- 29日(金) 大学院春学期授業終了

8月

- 1日(月) 夏期休暇[→9月15日(木)]
- 6日(日) オープンキャンパス
上旬 親子陶芸教室
下旬 体育会・文化会フレッシュマンキャンプ

9月

- 3日(土) 父母懇談会(浜松・岡山・四日市)
- 10日(土) 父母懇談会(金沢・岐阜)
- 13日(火) 留学生別科秋季入学式
- 17日(土) 父母懇談会(大学会場)
- 18日(日) 大学院春学期学位記授与式
大学院博士前期第I期入試・
博士後期課程秋学期入試(経営政策専攻)
- 23日(金) 大学院修士課程第I期入試
(経済学専攻・英語学専攻・中国語学専攻)
- 26日(月) 秋学期授業開始
- 28日(水) 春学期卒業式・修了式

156社を招いて 会社説明会を開催

第23回学生論文コンクール表彰

第23回学生論文コンクールの表彰式が、1月12日総合研究所において行われました。このコンクールは、総合研究所が、

2月8日(火)～28日(月)までの延べ14日間、本学主催会社説明会を「さかえサテライト」で実施しました。この説明会には、本学の卒業生が在職する優良企業を中心として156社にお越しいただき、就職活動が本格化してきた現3年生のうち352名が参加しました。いい人材を早めに確保したいと、言う企業の姿勢は強まっており、各企業が行う単独の説明会も、例年より早まる傾向にあります。このため、3年生にとって2月の活動はより重要性を増しています。期間中には「模擬面接」「女子学生マナー講習」「自己PR相談コーナー」も実施しましたが、目前の面接試験や履歴書提出に備えて、多くの学生が真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。

本学学生の特徴ある教育研究の振興に寄与し、学生の自主的な研究を援助しようという視点から実施し、研究によってまとめあげられた優れた論文を選考し表彰するものです。今年度は、経済学部4年牧野真太郎さん(児島ゼミ)の論文「アイワイ(IY)バンク銀行参入によるATM戦略の変化」が入選となり、総合研究所長(経済学部教授)から賞状と記念品が授与されました。



本法人の財務諸表等の 閲覧について

2004年度の決算関係書類(財産目録・貸借対照表・収支計算書)および事業報告書の閲覧は5月30日から財務課窓口にて縦覧できますのでお知らせします。なお、2004年度決算・2005年度予算の概況については、次号のコスモラマにてお知らせします。

2005年度春学期の 学費請求について

春学期分の学費振込用紙は3月末日に発送させていただきます。なお、納付期限は4月25日(月)となっております。

「名古屋キャンパスチャペル 建設資金」募金のお願

本学は2007年4月に名古屋キャンパスを開設しますが、キャンパス内にはチャペルを建設することとしています。チャペル建設資金については、同封の募金趣意書のとおりご父母をはじめとして本学にかかわりのある各位に募金をお願いして、その寄付金でまかなうこととさせていただきます。

ついでに、「名古屋キャンパスチャペル建設資金」募金について、ご協力をたまりたくお願いするものです。なお、この募金は任意でお願いするものです。





表紙写真／名古屋キャンパス（パース）

2007年4月開設する名古屋キャンパスの白鳥学舎と日比野学舎の外観イメージパース。名古屋市熱田区白鳥地区で都市型大学としてさらなる発展を目指します。

学校法人 名古屋学院大学

発行日 ■ 2005年3月20日

編集 ■ 名古屋学院大学 総合政策部

発行者 ■ 名古屋学院大学 総合政策部
愛知県瀬戸市上品野町1350 〒480-1298

TEL 0561-42-0317 ISSN 0915-8901

本学の情報はホームページでもご覧いただけます

<http://www.ngu.ac.jp/>

E-mail: upr@ngu.ac.jp